ロスプリベンション への道 4 協働防犯（4）

待望のリーフレットとセキュリティショー大阪開催に感謝して

NPO法人 全国万引犯罪防止機構

6月16日(金)に個人情報保護委員会のホームページで犯罪予防や安全確保のための顔識別機能付きカメラシステムの利用についての資料一覧がアップされた。その中にあった啓発用リーフレットを深い思いで拝読させていただいた。そして、初開催となるセキュリティショー大阪のなかでも、このリーフレットの意義を後世に伝えなければと思い、この「JEAS永劫の使命」の対談を企画することにした。この号では、27分動画のほぼ全文を紹介したい。それをもって記念すべき第1回セキュリティショー大阪開催のはなむけとする。

第1回 日経セキュリティショー大阪2023 工業会JEASリーダー達の熱き対談 〝永劫の使命〟

対談スライド
https://www.jeas.gr.jp/pdf/20230714.pdf

○は発言者

【スライド1】

○稲本 こんにちは。工業会日本万引防止システム協会、略してJEAS。会長の稲本でございます。今日は、日経セキュリティショー大阪2023第1回開催を記念しまして「工業会JEASリーダー達の熱き対談〝永劫の使命〟」という演題で、お話を進めさせていただきます。

【スライド2】今日の登壇者でございますが、山本推奨顔認証システムワーキング長です。こちらが、青柳科学保安講習リーダー、そしてこちらが摺田政策・研究員長でございます。

【スライド3】早速、工業会JEASの説明に入らせていただきますけれども、設立が2002年6月、当初、そして現在まで万引防止機の安全利用を行っております。今は正会員40社、賛助会員10社、特別会員7社ということで、新たな取り組みを行っております。

2018年2月に経済産業省・中小企業庁から、万引防止機の工業会認定を受け、さらに2020年9月に内閣府の個人情報保護委員会より認定個人情報保護団体の認定を受けております。日本には150の工業会がありますが、われわれが初の認定個人情報保護団体でございます。その責務もありまして、今日はお話をさせていただきます。

【スライド4】最初にニュースをお伝えしなければいけません。顔認証、正確に言うと顔識別機能付きカメラシステムの万引防止の利用が公的に認められるというお話です。今まで顔認証は、空港のテロ対策など、国家的な安全対策のなかで使われることには国民的な理解があったと思います。

万引防止対策についてはどうだろうという意見が、弁護士の方々をはじめ有識者の方々やいろいろなところでありました。

そういう報道もありましたが、この画面に出ているように、テロ対策だけではなく、万引防止等でも使いましょうということで利用が認められたのが6月16日でございます。個人情報保護委員会のホームページにこちらの冊子が初めて公開されました。

【スライド5】ただ、それは同時に責任があるということでもあります。JEASとしては、店頭の表示、プライバシーポリシーはこうしてくださいという案内を、会員を通じてお客様にご案内しております。また、システムの監査、ガイドラインやチェックのお手伝いもさせていただいて、システムが安全に、いつまでも皆さんの信頼に応えられるように、人的な側面で対応させていただいております。

【スライド6】その背景にあるのは、JEAS永劫の使命と今日のタイトルにもなっていますが「人々の安全安心のため、脱法思想を排除し、官民で基準を作りその遵守を全うする」ということで、われわれここにいる理事、幹部のメンバーは、グレーゾーンは国と打ち合わせして、きちんと明確にして、ガイドラインを作って、それを皆さんと一緒に守っていこうということをやっています。

このコロナ禍においても、サーモカメラも含めて、そういう対応をしてガイドラインを作ってきました。今後もそれを行っていきます。どんな危機に陥ったとしても、われわれは永劫の使命を忘れるつもりはありません。実務として、今日はその事例を説明させていただきます。

【スライド7】それでは、第4回推奨顔認証システム制度の開催について、山本ワーキング部長、お願いします。

○山本 ご紹介いただきました、推奨顔認証システムワーキング部長をやっております山本と申します。

推奨顔認証システムにつきましては、2020年に認定基準を作りまして、第1回の審査を行いました。

第2回につきましては、ちょうどコロナ禍のなかで顔認証がマスクをしていても認証できることが、社会的な命題となったこともありまして、各社が機能を実装したことも踏まえて、マスク基準を追加した審査を行っております。

第3回につきましては昨年行っております。

現在、計5社のメーカー様が推奨を受けております。順不同ですが、パナソニック様、NEC様、グローリー様、ジオビジョン様、昨年は海外メーカーでありますリアルネットワークス社様も認証を受けられて、このシステムの活用をされています。

第4回につきましては今年の9月中旬を予定しておりますので、皆様、奮って審査にご参加いただければと思います。私のほうからは以上になります。

○稲本 ありがとうございます。2月下旬より行われたセキュリティショーもそうですし、大阪のセキュリティショーもそうですが、顔認証、カメラが出ております。ぜひ、触っていただいて、本当にマスク対応をしているのか、反応するのかということを、その場で見てもらって、いろいろと質問をして、きちんと答えられる。または、皆さまが良いと判断する合格ラインを超えたものを選んでいただきたいということでお願いします。そういう基準を明確にするために推奨顔認証システムを作りましたので、よろしくお願いします。

【スライド8】さて、いいシステムを作ったとしても、使うのは人です。その人の部分で第3回科学保安講習会開催について、青柳リーダーからご説明をお願いいたします。

○青柳 科学保安のプロジェクトリーダーを務めております青柳と申します。

そもそも科学保安については、稲本会長が、保安警備の現状の打開策を講じる手助けとして、先ほど山本ワーキング部長からご案内がございました推奨顔認証システムを保安警備に活用できないかという企画からスタートしております。

これを活用するにあたっては、個人情報保護法の関係もございまして、いろいろ勉強をされて、認定個人情報保護団体にJEASはなっており、弊社を含めて対象事業者は対象事業者研修を受けております。

本年度の第3回科学保安の講習会は、事前講習が10月19日、本講習が11月16日に実施されます。こちらは、総会で発表させていただいて、総会の内容を警備保障タイムズさん、警備新報さん、セキュリティ産業新聞さんなど新聞で大々的に報じていただいて、警備業界の中でも認知度を高めていただけるようなご協力を頂いております。

事前講習の10月19日においては、全国警備業協会から出ております「保安警備業務の手引き」という非常にまとまっていて良いものを基に、保安警備の実務に携わっている方など、警備業法の部分を再度確認して頂いております。

本講習においては、先ほど山本ワーキング部長からご紹介がございましたJEASの推奨を得ている5社のメーカー様の各機種の特徴などを含めて、しっかり勉強できるようなカリキュラムになっております。今後は、さらに進化をして、推奨の非常に素晴らしい顔認証メーカーさんの機械を、保安警備のスタッフが使えるような講習会になっていけば、なお、宜しいかなと思って、切磋琢磨しているところでございます。

小売業の現状としては人手不足があり、セルフレジ、セミセルフレジなどの対応をしていたり、実際、今回の戦争の影響で仕入れの原価が上がったりと、非常に厳しい状況にあって、なおかつ光熱費が上がるということで利益体質を作ることに非常に苦労されております。そういったなかで万引の被害は、実際、弊社のご契約先においても、20年、30年と保安警備を継続して入れていただいておりますけれども、毎年、捕まる人数、窃取する平均点数はほとんど変わっておりません。こういった被害を食い止めるためには、推奨顔認証システムを使う必要があろうかと思っている次第でございます。

それと結びになりますけれども、警備業は生産性を向上するために、今までマンパワーの力だけでやってきましたが、素晴らしいメーカーの機器をこのような科学保安講習会を通して、皆さんに知っていただいて、次の世代にしっかりした警備体制を引き継ぐことができるように進めておりますので、皆さん、誰でも受けられますから、JEASのホームページをご覧になって、ぜひ1名でも、2名でも、こういった保安警備の新たな科学保安という、素晴らしい機器を使った生産性を高める仕事を、ぜひ皆さんで未来を切り拓いていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。以上です。

○稲本 青柳リーダー、ありがとうございます。もう1つは、高齢化に伴って、売場で倒れてしまうような高齢者もいらっしゃいます。そういった問題に対してどのように取り組みをされているのかについても、ひと言、お願いいたします。

○青柳 稲本会長がおっしゃいましたように、今、食品スーパーの万引犯は高齢者が非常に多いです。そういったなかで万引をする時には「たくさんの商品があるから1点くらい、いいだろう」「普段、買物に来ているから、このぐらいはサービスでいいだろう」という軽い気持ちで万引をされる方が非常に多いと思われます。

実際、万引をされた後に保安員に声を掛けられて、事情聴取を受ける時には、心拍数が上がって、名前を書く時に手が震えるといった状況に陥ります。会長が先ほどおっしゃってくださったように、私が代表に着任したあと、救急法の基礎講習をすべての保安員に受けていただきました。その翌月に高齢者の万引犯人に女性保安員が声を掛けたところ、お店の事務所への同行を促した際に、心肺停止状態に陥って、AEDを使って救命措置を施して、救急車が到着した時には自発呼吸が戻ったという事案がまさしくございました。

「罪を憎んで人を憎まず」という言葉もございます。そういったなかで命を落とすようなことがないように、また買物におみえになって、寒暖差から突然、心肺停止になったり、転倒事案等、さまざまなことがございます。もともと保安警備は、店内の安全を保つということで、警備業の基本である人の生命、身体、財産を守るところを考えて、救急法の基礎講習、訓練を重ねております。以上です。

○稲本 ありがとうございます。お待たせいたしました。摺田政策・研究委員長、推薦製品認定制度について、熱く語っていただければと思います。

○摺田 政策・研究委員長を務めております摺田と申します。私のほうからご説明させていただきます。

【スライド9】このたび、JEASの理念に沿ったシステム、サービスを推薦する制度を設けております。2022年に試験運用を重ね、2023年6月2日の通常総会をもって決議し、正式にスタートしている制度となります。

推薦の方針としましては、製品、サービスの新規性、先進性、こういったところを中心に、実際にその製品、サービスをご利用いただいた地域、小売業の皆様にご活用いただく。そして、事業を改善あるいは安全に進めていただくといった観点で認める制度となっております。

また、推薦条件に関しましては、私ども協会の入会条件であります電波法や電安法などの関連法令の遵守はもとより、システムセキュリティ対策や監査業務は当然のことながら、そのほか政策・研究委員長で詳細な認定ルールを決めて、認定するものとなっております。

こちらは、協会員以外の企業様からでも、どんどん応募いただけるものとなっておりますので、ぜひ応募をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○稲本 ありがとうございます。われわれの会員も、介護施設、配膳など、今までとは違った分野で安全を担保しながら、いろいろなシステムを展開し始めています。そういうものに対して、今まで評価基準がなかった。われわれも一緒に学びながら、そういうものをきちんに世の中に出していこう。そして、日本産業再生の一助としようということで、こういった推薦製品認定制度を作らせていただきましたので、ぜひともお申込みをお願いいたします。申込は無料です。審査も無料です。合格されましたら若干の費用をいただきますけれども、われわれも学ぶための制度なので、そういうつもりで垣根を低くしておりますので、ぜひともご応募をお願いいたします。

【スライド8】先ほど申し忘れましたが科学保安、ここにも貼ってありますけれど、ある意味、これも推薦製品に近いと思っていますが、このステッカーの貼ってあるお店は何かというと、それがきちんと使われているのかどうかを審査までしています。ある一定以上の点数になると、こういった科学保安というステッカーを貼らせてもらい、形に残ることをやっております。お店の方々におかれましては、科学保安、LPというのはLoss Preventionですが、ロス対策の推進店ということでたくさんのお店でシールが貼られることを願っております。

【スライド10】あとは今後の予定です。セキュリティショー大阪が7月20日～21日、そして8月25日はビッグサイトで「セルフレジ不正をどう防止するか ～最新テクノロジーとお店でできる対策集～」ということで新たな冊子を用意しておりますので、それを初公開します。これは会場だけのセミナーなので、来られなかった方は9月13日、自動認識総合展で同じ内容のセミナーを行いますので、できるだけ多くの方にお越しいただければと思います。

【スライド11】今日は少しだけですが、準備中のフルセルフレジ不正防止のための冊子画面が写っております。今、だいたい内容は完成しまして、これを小売業の方々、特にスーパー関係の方々に見てもらって、現場適応をして問題点がないか、洗い出しをしております。これをもって、皆さんのところで生産性向上のお役に立ちたい、そして不正がない社会を目指して作っております。

ただ、これは条件があります。これはホームページ等に一切アップしませんので、管理者、責任者だけが見られる資料ということで、今回は条件付きで小売業の方々にご案内をしていくことになっております。

【スライド13】いろいろ皆さんのお話を伺ってきましたが、時代が大きくパラダイムシフトをしているような感じがします。そのなかで、われわれの考え方、今後のあり方、そして各社の考え方、生き方まで含めて、皆さんのほうで何かお話がありましたら、お願いいたします。それでは山本ワーキング部長、お願いいたします。

○山本 推奨顔認証システムは先ほどご紹介させていただいたとおり、顔認証システムとひと言で言いましても、海外メーカーさんを含めまして多数のメーカーさんがあるなかで、小売業様がどういったものを選べばいいか、なかなか分かりにくいなかで、推奨顔認証システムは生まれました。

先ほど、認定合格した社様はノウハウ、仕様については、ある意味コペティターでもあるわですが、こういったところをある程度開示し、共通の基準を作り、お様に安心安全に運用いただけるシステムとして推奨されるところが、このシステムの本当のねらいでございます。ですのっていれば、きちんとえるのだということすぐにお客様に通じるうなことを目指して、後も活動をしていきたと考えております。

具体的に会員企業の営様に、小売業様から推奨顔認証システムに定されているそうだけ、認定のやり方、どうった基準で合格したのを説明してほしい」とったお問い合わせを受て、ご説明をさせていただいて、ご理解いただたりということが少しつですが進んできておますので、そういったころを今後推進していたいと思います。

○稲本 ありがたい話でね。小売業の方々にそ思ってもらうのは何よだと思っております。れでは、青柳リーダー願いします。

○青柳 先ほど、山本推奨顔認証システムワーキング部長からお話がありましたが、山本様ともいろいろ意見交換をしていなかで、私どものよう私服警備の会社が推奨ーカーの機器を使わせいただいて、万引を捕えるということができのであれば、こんなにいことはないだろうとうことで、実際に2021年度、推奨メーカー2社にお声を掛けていたいて、弊社のご契約先ーパーさんで万引を捕ることをやっみました。

今までは現行犯で、そ場で見たものを押さえということでしたが、奨顔認証システムを使ことにより、その方がぼ毎日来ている、お店冷蔵庫代わりに使っていることや、1カ月30日なかで29日、万引をやていると。想定外の現が目の前で起きました。それと保安警備はだたい11～19時、コアの間帯で入っていますが、開店直後の9時台、10時台、顔認証を使うと、その時間帯に来ている常習者に関しては、当然、保安警備の目が行き届きません。とり逃がしている犯人もおりました。

このような状況を含め、最近、弊社のお客様の年間捕捉状況を分析しました。20年、30年と継続的に私服警備を配置させていただいていますが、年間の捕捉件数は減りません。世代が変わっても窃取平均点数も減っておりません。小売の現状から申しますと、非常に厳しい経営環境のなかで、こういった常習者を確実に排除できるように、しっかりしたものをやっていけるようにしたいと思っております。私からは以上です。

○稲本 ありがとうございます。売場から見ると排除ですが、早めにサポートしてあげて、犯罪を重ねないことがご本人、そして家族の幸せにつながることもまた事実かと思っております。

○青柳 1点、申し忘れましたが、顔認証を使うのは、稲本会長、山本ワーキング部長、摺田政策・研究委員長が個人情報保護委員会と打ち合わせをいろいろされて、顔識別機能付きカメラを使う場合にはその旨を店頭に表示すると。この表示があって、顔認証が入っていれば、万引する方がしなくなるのではないかと。再犯を防げるのではないかと。今までのように事後対応、捕まえて排除するところから、事前の予防がこれからの時代は非常に重要になるのではないかということは強く思いますので、こういった機械をぜひ使わせていただいて、新たな時代を切り拓いていくことができれば、次世代に保安警備を継承できるのではないかと。こんな素晴らしい機器を使えないのであれば、次の世代にこの業務を継承するのは非常に難しいだろうと。私は今、代表を務めておりますので、そういった観点からも、未来を切り拓くためにはこういった道具は必ず必要だと強く認識している次第です。以上です。

○稲本 熱いメッセージをありがとうございます。本当に高齢化が進むなかで、認知症の人がたびたびお店に行って万引をすることもあって、そういうところから顔認証を使うと、ありがとうございます。売場から見ると排除ですが、早めにサポートしてあげて、犯罪を重ねないことがご本人、そして家族の幸せにつながることもまた事実かと思っております。

○青柳 1点、申し忘れましたが、顔認証を使うのは、稲本会長、山本ワーキング部長、摺田政策・研究委員長が個人情報保護委員会と打ち合わせをいろいろされて、顔識別機能付きカメラを使う場合にはその旨を店頭に表示すると。この表示があって、顔認証が入っていれば、万引する方がしなくなるのではないかと。再犯を防げるのではないかと。今までのように事後対応、捕まえて排除するところから、事前の予防がこれからの時代は非常に重要になるのではないかということは強く思いますので、こういった機械をぜひ使わせていただいて、新たな時代を切り拓いていくことができれば、次世代に保安警備を継承できるのではないかと。こんな素晴らしい機器を使えないのであれば、次の世代にこの業務を継承するのは非常に難しいだろうと。私は今、代表を務めておりますので、そういった観点からも、未来を切り拓くためにはこういった道具は必ず必要だと強く認識している次第です。以上です。

○稲本 熱いメッセージをありがとうございます。本当に高齢化が進むなかで、認知症の人がたびたびお店に行って万引をすることもあって、そういうところから顔認証を入れられるところもありますので、地域のサポートツールということも含めて、ご利用が進めばと思っております。

ライバルであっても、協力しながらいろいろな制度を作ります。今、警察および地域の方々、そして小売業の方々に聞くと、大量万引、常習万引が増えているという話も毎日、聞きます。そういう意味では、小売業の方々も協同してやる。われわれは、それを協働防犯と言っていますが、協働防犯の考え方に立って、商売はライバルかもしれないけれど、防犯はタッグを組んで一緒にやろうや！ということで、地域防犯に協力していただくとありがたいなと思っております。

それでは、摺田政策・研究委員長、よろしくお願いします。

○摺田 万引対策を事業領域として10年以上活動させていただいています。痛感するのは、先ほどの警備会社さんであったり、いろいろご協力をいただきながら活動していますが、最終的には多くのプレーヤーですね。法令に関わる弁護士のような方たち、当然のことながらお店の方のご協力、警備会社の方のご協力、こういったところが全体で取り組まないと解決できないものだなというのは痛感しています。また、医療関係の方たちの力も借りなければいけないと思っています。

そういった意味で、まだ情報発信の力は不足しているかもしれませんけれど、一歩一歩進めていきながら、最終的には小売業の皆様、事業の利益改善にきちんと貢献して、世の中が安全になるところをお手伝いできればいいなと考えながら、日頃から活動しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○稲本 ありがとうございます。そういうものを、われわれは「永劫の使命」と言っております。

【スライド12】JEASは、防犯民主主義と画面出ておりますけれども、「防犯民主主義の実現に向けて」ということで、誰もが安全安心を享受できる社会。本当にこれは当たり前のことだと思いますが、昨今、それがまた難しいことになっていますので、やるべきことをきちんと決めて、みんなでやっていこうというなかで、防犯民主主義の実現に向かっていきたいと思っています。

われわれは、EAS機器と防犯カメラとロス・プリベンション推進のための工業会です。小売業の方々は、われわれもそうですが、ロス対策士の資格をもって、新たなロス対策、防犯対策をやられていますので、それも含めて、われわれはサポートしたいと思っておりますので、引き続きJEASをよろしくお願いいたします。

今日はお話を聞いていただいて、ありがとうございます。引き続きよろしくお願いします。

……

JEASも万防機構もけして巨大な組織ではないのだが、犯罪予防、未然防止、事件解決、介護や医療、災害ボランティなどの現場で、大きな困難に対峙しなければならないときであっても、どのような努力をしてでも、最後までやり抜く覚悟をもった方々が多い。各社の活動を伺うと、つい第二次大戦時のチャーチル英首相のあの言葉を思い出す。「どのような犠牲を払っても最後まで戦い抜く。我々は森で、野原で、海岸で、通りで戦う」と語ったジョンブル魂のことである。この言葉は、第二次大戦中の1940年、ヒトラー率いるナチス・ドイツの電撃戦で英仏連合軍が苦境に陥った際、チャーチルが国民を鼓舞した言葉だ。英国人には、感情を押し殺し、何が起きてもあわてず冷静に対処する習性、そして逆境に打ち克つ不屈の精神―〝ジョンブル魂〟がある。それが今まさに、超大国の侵略を受けているウクライナの人々に受け継がれている。

そう、ロス対策や店舗防犯上のさまざまな困難と向き合うなかで、永劫の使命をまっとうすることが、われわれの〝ジョンブル魂〟こと〝協働防犯〟なのだと思う。

全国万引犯罪防止機構（通称：マンボウ）
万引撲滅のための戦略を本気で提言・実践する小売業界を中心に組織化されたNPO法人
文：事務局（稲本義範）